

地域の会 質問・意見書

日付： 2022年 6月 14日

氏名： 宮崎 孝司

資源エネルギー庁

に対する 質問 ・ 意見 (いずれか○)

第6次エネルギー基本計画について再質問します。

質問1. 5月の質問は、エネルギー基本計画で日本が保有するプルトニウム46トンをどのように削減するかというものでした。回答では、MOX燃料で年間6.6トン削減、再処理により年間6.6トン回収されるとありました。プルトニウム削減は「再処理等拠出金法」により管理と利用を行うとありました。この回答では、理解できません。再度教えてください。

(1) 「再処理等拠出金法」には、どのように削減する仕組みが示されているのですか。

(2) 46トンのプルトニウムはMOX燃料により削減しても7年かかる計算です。7年間、再処理しないという計画ですか。

質問2. 乾式貯蔵の場合の貯蔵量と期間は決まっていますか、と質問しました。回答は、貯蔵量も期間も示さず、貯蔵状況により搬出するとありました。いったいどんな「貯蔵状況」を想定しているのですか。永久に貯蔵することもあるということですか。

質問3. 太陽光発電の抑制はどのように処理されているのかお聞きしました。回答してもらえませんでした。再度お聞きします。発電量が需要量を上回る場合、余剰の電気はどこにも使われないわけですから、電気を捨てるということです。

(1) 「電気を捨てる」とは、どのようにするのですか。

(2) 「捨てられた電気」は、太陽光発電だけではなく、バイオマス、風力発電でもあると聞きました。年間どれくらい「捨てられる」のですか。ここ数年間のデータを教えてください。

(3) エネルギー基本計画には、「捨てられる電気」の対策があるのでしょうか。

地域の会 質問・意見書

日付： 2022年 6月 14日

氏名： 宮崎 孝司

新潟県

に対する 質問 ・ 意見 (いずれか○)

原子力災害時避難に関わる重要なシュミレーションを聞かせてもらいました。私はこれでは、「実効性のある避難計画」はできないと確信しました。でも、県はこの報告が3月に入手しましたが、いまだにこれに基づく避難計画の見直しをしているという話は聞いていません。そこでいくつかの質問をします。

質問1. 再度のシュミレーションはありますか。

今回は30km圏離脱時間を図るものでしたが、避難所はその先です。車列は続きます。避難所に到着するまでのシュミレーションを是非してほしいと思います。県民に原子力災害時の避難というのは大変厳しいものだというイメージを持たせてほしいと思います。

質問2. 避難のイメージを「ピクニック型」から「移住型」にすべきではありませんか。

30km圏脱出まで約14時間です。半日以上車中で暮らすということです。さらに避難所までを考えるとどこかで就寝時間をとることになります。県は自家用車の台数を減らすため近隣住民の「乗り合い」を勧めています。市のガイドブックにはリュックの重量を10kg以下にしましょうなどとなっていますが、これは住民に「ピクニック型」のイメージを持たせることになります。避難中に寝起きを伴うわけですから、自然災害編に非常持出品や備蓄品に指定されているテント、寝袋、固形燃料、鍋、包丁、ポリタンク等々「移住」覚悟の避難行動をするよう住民に伝えるべきと考えます。乗り合いで、隣人家族の持出品など積み込む余裕はないと思います。まさに、移住に供えて1家族、すべての乗り物を動員して、家財道具を運び出す「移住型」の避難をイメージするよう住民に伝えるべきです。その考え、見直しをしませんか。

質問3. シュミレーションに近い状況での避難訓練はいつ行われますか。

県は、訓練を通して計画を改善し、実効性を高めると言っています。しかし、広域避難の難しさを検証する訓練は行われたことはありません。全住民、全車両参加の訓練とは言いません。可能な限りの人と車で14時間かけた訓練をしてください。1分で、スクリーニングができるのか模擬訓練をしてください。

これまで通り、手ぶらの人をバスで避難経路所まで運ぶ訓練はやめて、有事に近い訓練をして改善点を抽出してこそ計画が改善されるというものです。